

合唱団「萩」

舞台
カーネギーホールから
故郷日本へエールを

5月20日、カーネギーホールで日米合唱チャリティコンサートに出演する合唱団「萩」が、東日本大震災で大きな被害を受けた仙台市からやってくる。震災発生直後は参加も危ぶまれていたが、「こういふときにこそ」とメンバーは立ち上がった。

公演を目前に控え、「萩」の指揮者、岡崎光治氏(以下・岡)と団長の末光眞希氏(以下・末)にお話を伺った。



合唱団「萩」の誇りは?

末 私 が常々誇りに思っているのは「素晴らしいコーラスの仲間」です。仙台・東北に深い関わりを持つ人たちが、釜石、秋田、仙台、いわき、東京、広島、山口……と全国から集まってくれました。合唱を愛し、その練習にひたすら取り組む、

熱い心の人たちばかりです。とくに今回被災された東北の人たちは、その熱い思いを静かに内に秘めておられるところが素晴らしいと思います。この「合唱を愛する素晴らしい仲間」と一緒に、カーネギーホールに行ける! これ以上の誇りはありません

カーネギー出演決定にかける思いは?

岡 私の出身である東北大学男声合唱団の後輩でNY在住の白田正樹くんから、「合唱団を編成してカーネギーホールに来てよ」とお誘いの声がかかりました。カーネギーホールはアメリカを代表する音楽の殿堂です。堂々としたルネサンス風の外観を持ち、一方、ステージの、あの丸みを帯びた構造は、そこで演奏



末光眞希氏

される音に優美さ、高雅さを与えてくれます。誰もが憧れるそのホールで、「素晴らしい仲間」と合唱を披露することが出来るなら! と、喜んでお引き受けしました

今回のカーネギー合唱の見どころは?

岡 考え抜いて選んだ曲です。一年間かけて取り組むに耐えうる内容で、「熱い心」で歌うべき曲ばかりです。男声合唱団岡宮芳生さん作曲コンポジションの3番は、日本に伝わる音楽素材を取り入れて作曲されています。この曲は、私たちの「日本人の血」を沸騰させ、日本らしさを表現することを求めて来ます。日本人の鼓動、情念をNYの人々に訴えたいと思います。混声のステージの一つ目は、広瀬量平さんの海の作品4曲で纏めました。どの曲にも広瀬さんの人間への「優しさ」と「厳しさ」の想いが巧みに織り込まれています。曲の内側にどれだけ

迫ることが出来るかが、広瀬さんの曲を歌うにあたっての私達の課題です。2つ目の混声のステージは、日本とアメリカの佳曲で構成しました。声を自在に使う幅広く表現したいと考えています。私たちが日本の合唱人が如何に多くのアメリカの音楽に影響を受けた、これを楽しんできたか、ということを考えています。終曲は、団員の一人、東北学院大学グリーンOBの竹花さんのアレンジで愛唱されている「斉太郎節」を歌います。この曲は、壊滅的な打撃を受けた石巻、女川、気仙沼などの漁師さん達の「大漁歌い込み」です。これら美しい漁港の一日も早い復興を祈りつつ、力を込めて歌いたいと思います

被災者を始め、日本にいる全ての人へメッセージを

末 震災以後、合唱団「萩」の合言葉は「それでも」でした。「それでもNYに行ける状況にない。それでも行こう!」こう



岡崎光治氏

決心した後、すばらしい出来事が次々と起こりました。「日米合唱祭」が「みちのく災害支援チャリティコンサート」になりました。NY行きに明確なミッションが与えられました。演奏にリアリティが加わりました。そして何と、「萩」が前回の貞観大津波で荒土と化した宮城野に最初に咲き誇った花であったことを知りました。「萩」は復活のシンボルだったのです。「とても」と思う毎日です。しかし「それでも……」と一歩を踏み出すと、予想だにしない世界が広がることを今回私たちは知りました

今後の活動の抱負は?

岡 私たちは、ニューヨークの皆さまから多くの素晴らしいものを頂いて日本に持ち帰ることにすると確信しております。その皆さまから頂いた熱い心をエネルギーとして、人の魂の根元を探し求めつつ、合唱を続けていくつもりです。そして私たちが歌い続けることで、被災された人々の心を少しでも癒し、明日の復興への希望と勇気を与える一助となるのならそれはこの上ない喜びだと思っています